



縄文早期末の土壌群

調査区南側の埋没ローム台地上からは、縄文早期末の炉穴や土壌が約140基見つかりました。



縄文晩期の土壌

南側盛土からは、これまでに200基を超える縄文後・晩期の土壌が見つかりました。



縄文晩期の住居跡

南側盛土の第二面からは、炉跡が3か所見つかり、これに伴う柱穴列も見つかりました。その中の1軒からは、ミニチュア土偶が出土しました。



縄文後期の埋甕



縄文後期の土偶



縄文晩期の独鈷石

密教で使われる独鈷杵に似ていることから命名されました。用途は不明です。



縄文晩期の耳飾り



縄文後期の双口土器

双口土器は、後世(中世?)の遺構に壊された土壌から完全な形で出土しました。土器の一部には赤く彩色された痕跡が残っていて、特殊な遺物だったことがわかります。



古墳時代前期の住居跡

古墳時代前期には、再びムラが営まれます。住居跡は、全部で6軒見つかりました。



久喜市菖蒲町

おぼやしはつろく

小林八束1遺跡(第2次)

平成24年度 第10回遺跡見学会
平成25年1月19日(土)

縄文のムラ

— 縄文人の土地利用がわかる！

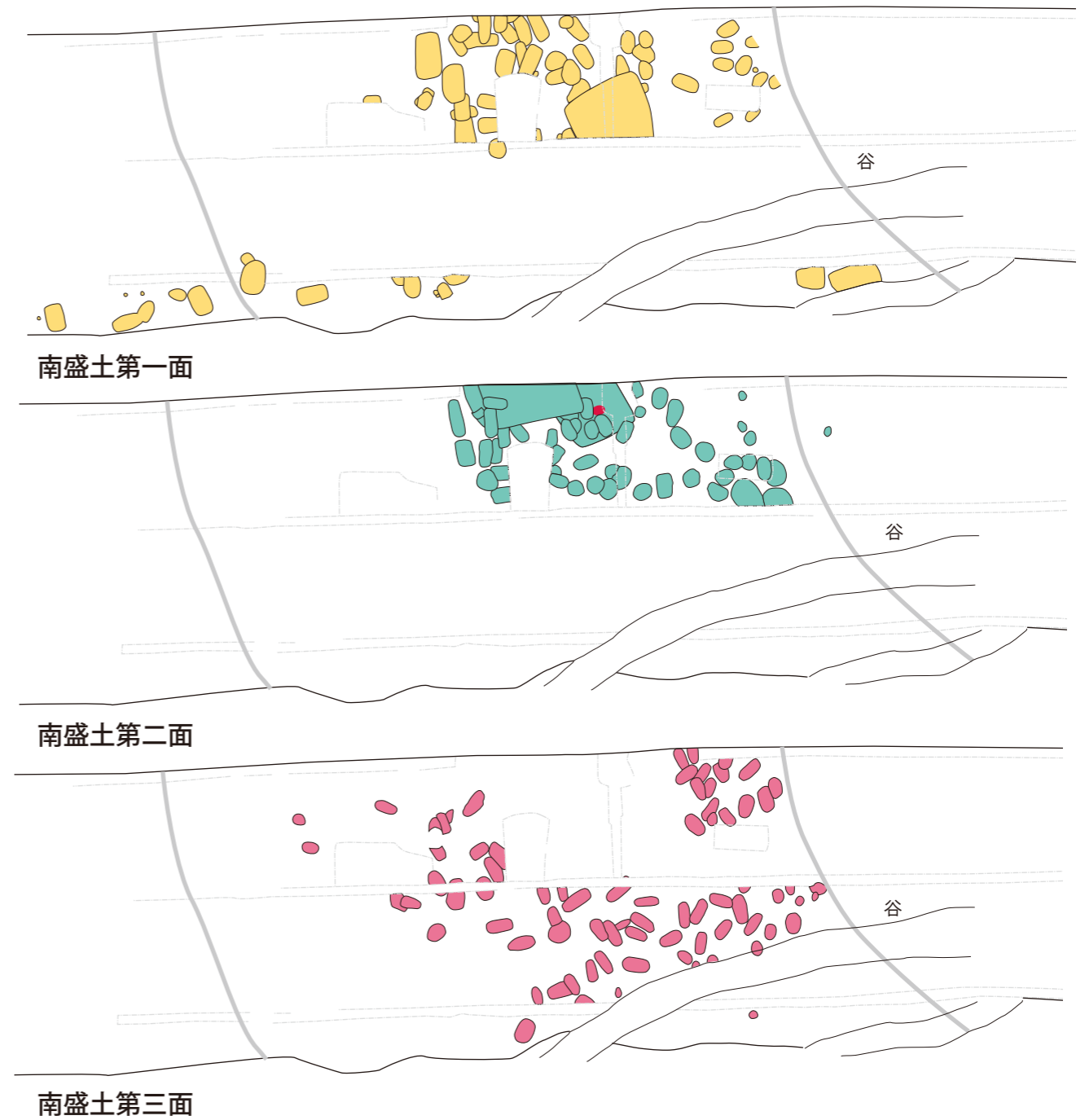
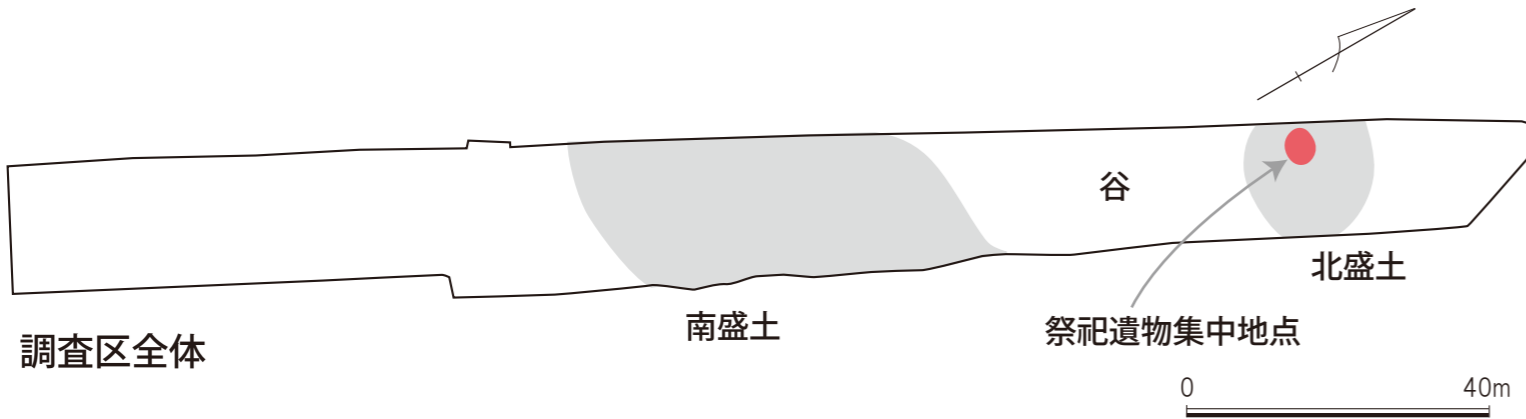
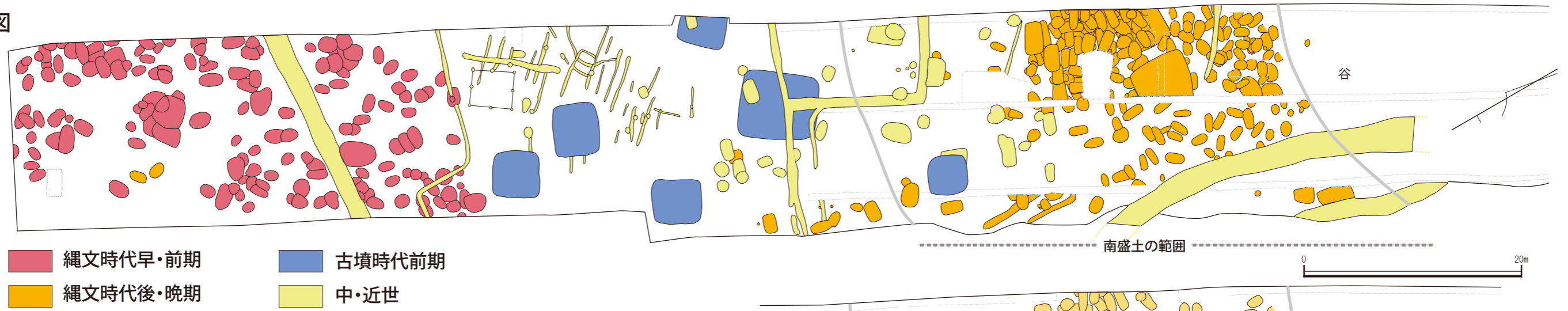
当事業団では小林調節池の改修に先立ち、発掘調査を行っています。小林八束1遺跡(久喜市菖蒲町大字小林)は、大宮台地が加須低地に接する地域に位置し、関東造盆地運動の影響を受けて埋没したローム台地上に営まれています。標高は約10mです。

調査の結果、縄文時代早期から前期にかけての炉穴や土壌(約7000年前)、縄文時代後・晩期の盛土遺構(約3000年前)などが見つかりました。盛土遺構は小さな谷を挟み、調査区の南側と北側で発見されました。南側の盛土は規模が大きく、五つの生活面が重なっていました。

この他、古墳時代前期の住居跡群(約1700年前)や、中世の溝跡(約700年前)なども見つかりました。

主催 公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
共催 埼玉県教育委員会・久喜市教育委員会

遺構分布図



さいし
祭祀遺物集中地点

北盛土の一角からは、土偶や石剣、注口土器など当時のマツリに関わる遺物が約200点まとまって出土しました。関東地方では珍しい土笛も見つかりました。

南盛土第三面

小林八束1遺跡の南盛土では、生活面が五面確認できます。最も新しい面(上面)を第一面とし、順に掘り下げています。第一面からは、主に縄文時代晩期の遺構や遺物が見つかりましたが、第二面では、後期と晩期が混ざりあっています。第三面からは主に、縄文時代後期の遺構や遺物が見つかりました。第四・五面の調査は、今後順次進めていきます。